◆茅ヶ崎同盟教会たより　　２０２３年4月

キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。ペテロの手紙第１５：１４

桜が満開になり、教会の庭の色とりどりの花たちも一斉に咲いています。が、戦禍にあるウクライナは今、どうでしょうか。昨年の４月の便りにもウクライナのことを書きました。あれから一年、今もなお戦禍の下にいる人々に一日も早く平和が来ますように祈ります。

平和を祈る時、思い出す讃美歌が「ああ、平和よ、奇しき平和よ」の歌詞のある、讃美歌５３１番の「こころのおごとに」です。この歌詞を作ったピーター・ビルホーンは、旅の途中である悲惨な列車事故を目撃した直後にこの詩を書いたそうです。「讃美歌２番の歌詞は「天より降れる、きよけき平和は　まどえる心の固きいしずえ」とありますが、原文は「キリストが十字架にかかられたことによって、平和がもたらされた。主の死によって私の負債はすべて支払われた。このことによってのみ、神の愛の賜物である平和があたえられるのである」（「讃美歌唱歌ものがたり」大塚野百合著）だそうです。

十字架上のイエス様は「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのかわかっていないのです」（ルカ23:34)肉を裂かれ、血を流され、極限のお苦しみの中でもご自身を十字架にかけている者たちのために神にとりなしの祈りを捧げ、また罪人にも「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」（同43)と永遠の希望の約束を与えてくださいました。イエス様の十字架のこのおことばは私たちへの言葉でもあります。イエス・キリストは私たちの身代わりとなって十字架に死に、そして三日目によみがえられました。キリストの死も復活もすべて私たち人類を愛してくださる神様の御業です。上記の讃美歌を平和を願って歌う時、この詩の原文にあるキリストの贖いを覚え、「み神のたまえる　くしき平和よ」と祈りつつ高らかに賛美したいと思います。

伝道師　川島正子